

本校がこれからも続けていきたいこと

●学習意欲を高め、将来への展望を持てる指導

- ① 検定取得への手厚い指導と達成感の醸成
- ② 多様な希望進路に対応した個別指導体制づくり
- ③ 難関資格取得への挑戦(ITパスポートなどの国家資格)
- ④ ICT教育の推進(社会人常識マナー検定に次年度導入予定)

●不登校を経験した生徒に対して

- ① 総合選択授業の充実（学校の楽しさを認識してもらう）
- ② 家庭との連携
(心が既に挫けている保護者に対する寄り添い) が必要
- ③ 不登校生徒が元々持っている能力の発見と開発
- ④ 受容・やさしさ・粘り強い導き・見守り・励まし

委員からのご意見

<高等専修学校が行っている取り組みの一端について>

・進学先の選択肢として貴校の存在は大きく、丁寧な指導で不登校だった生徒が欠席することなく登校し、電卓の全国大会で入賞したり、成長して卒業していく姿を目のあたりにして進学させてよかったですと感謝している。

・中学校卒業後の進路選択は多様であるべきだが、様々な課題を抱える生徒にとって選択肢が多くない。積極的にそのような生徒を受け入れ、立派に社会に送り出している取り組みは中学校にとっても大変ありがたい。機械的・事務的に生徒を受け入れることをせず、職員が中学校と連携を取り、一人一人の生徒の実情を把握した上で受け入れていることが登校の改善につながっていると考えている。

・高等専修学校が、社会が求めている状況に合わせて受け入れる生徒を変えてきていることはよい転換であったと考えている。

・生徒の個々の状態に合わせた指導を行うとともに、習熟度別少人数制の授業を展開し、学力の差を埋める取り組みとともに、卒業までしっかりと面倒を見ていただけることは生徒を送り出す立場としてとてもありがたく思っている。

委員からのご意見

<高等専修学校が各地域において教育的配慮を必要とする生徒を受け入れていることについて>

- ・高校だけではなく、小・中学校においても果たさなければならないことが出来ていない状況であるが、長期的に見て教育的配慮の必要な子どもを安心して進学させられる貴校のような学校は必要である。
- ・教育の本質、大切な部分を重んじ、先んじて取り組みを行っていることに敬服している。新しい学習指導要領を公立の学校より先に実践しているように感じた。
- ・中学校時代に、特別支援学級に在籍していた軽度の障がいを持っている生徒が全日制の高校に進学したとしても、学習についていけなかったり、周囲からのサポートが十分でなかつたりと、苦労している話をよく耳にする。そのような中で個に応じた指導をしている貴校はとてもありがたい存在である。

委員からのご意見

<全体を通じて>

- ・通常の高校にも、特別支援学校にもフィットしない生徒の教育をお願いしたい。
- ・貴校がかつて素行不良の生徒を受け入れていた時も子どもたちに手を尽くしてくれたことに感謝するとともに、現在、貴校が受け入れている配慮が必要な子どもたちが、社会に出て活躍できる社会、様々な人が共生していく社会の形成の一翼をうことをこれからも期待している。

3-3 茨城県（担当校：細谷高等専修学校）

文部科学省委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

高等専修学校の学びの「セーフティーネット」

令和3年度 地域連携委員会（茨城地区）実施報告

開催校 学校法人細谷学園 細谷高等専修学校

○令和3年度地域連携委員会実施にあたって

地域連携委員会（茨城）では、高等専修学校の社会的認知度を含め現状の確認及び課題の抽出を中心に検討を進めました。今回委員の方に実施しました高等専修学校の認知度に係るアンケート調査結果では、高等専修学校の認知度についてある程度内容も知られてきたのではと思われます。

ご芳名		※該当箇所に○印をつけてください			
よ 知 つ て い る	な ん と な い る	ほ 知 ら な い	ま 知 ら な く い		
細谷高等専修学校の認知度について (「高等専修学校」の認知度について)					
入学について					
① 男子生徒の入学（男女共学）について				3	2
② 不登校経験者の入学について				3	2
③ 多様な個性（軽度発達障害等）のある生徒の入学について				2	3
カリキュラムについて					
④ 県立高校（水戸南高校）の卒業について（細谷高等専修学校のBコース）				3	2
⑤ 専攻科目（美容、服飾、介護、保育、クリエーター、パフォーマー）について				1	4
卒業後の進路について					
⑥ 進学の場合、高卒と同等（大学入学資格附与）				3	2
⑦ 就職の場合、高卒と同等				3	2

今回のアンケート結果及び地域振興分科会での検討事項を基に、令和4年度及び令和5年度は、以下の内容を意識して研究を進めていく予定です。

（1）事業の趣旨・目的等について

高等専修学校の社会的認知の向上と真の高等専修学校の学びのセーフティーネットの確立を目指したい。

（2）具体的な取組（真の学びのセーフティーネット機能の充実強化のために翌年度以降検討していく具体案）

事業を通じて、高等専修学校の社会的認知度を一層高め、それぞれの地域でのさまざまな組織との連携を深める一方、「チーム高等専修学校」として、各地・各校での活動を情報開示、共有し、課題抽出を的確に行うことにより、具体的な改善諸施策を検討することを目標の一つとする。地域振興分科会（茨城）では、以下4つの内容

に着目し、その中から実際に進めていく研究内容を検討していく。

【検討内容Ⅰ】

事業計画書5（2）①高等専修学校卒業予定者の求人確保。（ハローワークとの連携強化）

- ・継続的な求人の確保につながる取り組み、事例収集。
- ・業界側が主体となって作成した、求人につながる企業実習（インターンシップ・デュアルシステム）のノウハウの研究。
- ・業界への認知度向上のための取り組み事例調査。

地域振興分科会（茨城）での検討内容

現在、生徒が非常に広範囲から通ってきている関係で、希望する就職先の地域や職種も非常に多岐にわたっている。その為、学校の所在地を中心に企業開拓を進めても、翌年度の卒業生については自宅の地域や希望職種が大きく変わってしまうため、実質的には効果が出にくい状況が続いている。それらを考慮し、現在はその年の生徒が自宅から通える地域とその生徒が希望する職種を基に毎年求人をひとつずつ探していく、就職活動を進めているが、現在のこのような方策については効率的でない部分もある。それらについての改善策、今後の方向性等について、研究していく。

また、例えば介護関係の就職希望者については、事前に職場見学または職場体験を行い、納得したうえで応募するケースが多い。休日のみでそれに対応していく場合、時間的な負担も大きいため、インターンシップ、デュアルシステム等を意識した企業実習について、研究を進める。

【検討内容Ⅱ】

事業計画書5（2）⑤高等専修学校の自由度を生かした教育の質保証。（社会の人材ニーズ、学習ニーズに 対応）

- ・社会的認知度向上を目標に、先進的な取り組みに関する事例動画の作成や Web での配信 等、魅力発信の方法検討。

地域振興分科会（茨城）での検討内容

高等専修学校を紹介できる動画を制作し、それを周知するための WEB での配信方策、DVD 等による配布等について検討する。

【検討内容Ⅲ】

事業計画書5（2）⑥地域との繋がりを構築する。（コミュニティーで PR 活動を実施）

- ・各地域の中学校校長会や進路指導研究会との連携状況の確認。
- ・地域コミュニティーとの連携の実態調査と事例の収集。

地域振興分科会（茨城）での検討内容

地域とのつながりを構築することにより、高等専修学校の社会的認知度を向上させるとともに、生徒が何らかの成功体験を経験しながら自信をつけていける活動について研究する。

【検討内容Ⅳ】

事業計画書5（2）⑩学びのセーフティーネット機能の充実強化により増加する『教員の負担』の軽減につながる 方策検討

- ・生徒一人一人に目が届くよう、業務内容の見直しと役割の分業化。

地域振興分科会（茨城）での検討内容

多様化する生徒一人一人に限られた教員で対応していくのには限界もあり、それに対応するための業務内容の見直し及び校務分掌を含めた役割の見直し等を行い、良い意味での業務の効率化について研究する。

○令和3年度地域連携委員会実施報告

1. 高等専修学校（細谷高等専修学校）に対するイメージ及び高等専修学校（細谷高等専修学校）に望むこと
本委員会を昨年度まで3年間実施した時には、かなり昔の細谷学校のイメージで、女子高のイメージ、裁縫

学校のイメージなどのご意見が多くありました。ここ数年間で少しずつ現在の学校の内容について広まっていると感じる部分もありますが、生徒さんを向けてくださっている委員の先生方より、本校に期待している事なども含めたご意見を以下にまとめた。

①下館南中学校の校長になって2年目なのですが、昨年色々と個別対応が必要な生徒を送りました。家庭的にも問題が多い生徒で学校にも来られない生徒だったのですが、その生徒も学校に登校していると聞き、大変面倒見が良いというイメージを持っています。不登校になった生徒が細谷学校に行ってもらえば大丈夫だなということを思っています。

その反面まだ昔のイメージをもった生徒や保護者・職員がいるのは確かですので訂正や提示していかないといけないなと思っています。

【柴山 勝利 委員 筑西市立下館南中学校 校長】

この生徒について、はその子のお姉さんが数年前に通っていてまたお姉さんとは違うような雰囲気ということで入学前は心配していたところだったのですが、その生徒に限らないことですが友達との関係がおかしくなってしまうと、非常に手がかかります。担任や同じ学年の先生などで何度も間に入って関係を改善してあげていますが、今も完全に解決していない状態で微妙な友達関係で毎日登校している生徒もいますので、卒業するまで気を抜かずに継続していく必要があります。

中学校までお休みが多かったという部分についてですと、資料の中に高等専修学校のパンフレット（未来をひらく高等専修学校）をつけさせていただいたのですが、こちらは文科省のホームページからPDFで開けるようになっておりまして、高等専修学校の特徴を4つにまとめたページがあります。その中で不登校経験者の自立を支えるというところは全国の高等専修学校に共通する特徴の1つなのかなと感じております。

こちらのページは本校の内容を掲載せさせていただいているのですが、資料6ページから8ページまで在校生や保護者の方の声が掲載されております。毎年調査しているのですが、中学校までの不登校経験者の生徒の割合が高くて、もちろん全員ではないのですが3割前後はどの学年でもあります。

パンフレットでは高等専修学校の特徴を4つあげていますが、その4つの特徴について本校の場合すべてに当てはまっている状況です。1つは「仕事に活かせる資格を取得できる高等専修学校」なのですが、本校でいうと、介護の資格は全員卒業までに取得してもらう、また分野ごとの資格を取得してもらうなどしております。2番目の「不登校経験者の自立を支える高等専修学校」ということでは、不登校を経験していても毎日登校できるように様々な配慮をしております。3番目の「多様な個性のある生徒の自立を支える高等専修学校」という部分については、軽度の発達障害の生徒などが増えているということで本校にも中には療育手帳を取得している生徒もいますが、取得はしていないが申請すれば取得できるような微妙なラインの生徒もいます。

4番目の「夢の現実をサポートする高等専修学校」という部分については、介護以外にも声優、美容、マンガなど色々な科目があり、道は狭いが夢の実現に向けて応援をしていき、興味を持ったらそちらの分野へ進んでいくという生徒も多いです。以上が4つの特徴です。

先程下館南中の校長先生からお話しのありました内容については、不登校経験者の自立を支えるという部分について学校としてもきちんと取り組めるようになっている現状かと思います。

②関城中学校の校長になって2年目ですが、その前何度か赴任しており、数年前に進路指導をしていた時には裁縫など昔のイメージを持っていたことは事実です。最近社会的にも不登校になっている生徒が課題になっているわけですが、そういった生徒に対してすごくフォローしてくださったり支援してくださったりしています。

高等専修学校の4つの項目（特徴）について、その中の2番目の項目（不登校経験者の自立を支える高等専修学校）ですが、来年度、本校から2人お世話になります。どちらも不登校なのですが、面接の練習などをし

ているとなかなか良い考えをもっているし個性的で才能があるのではないかと思うような生徒です。不登校でありながら個性を活かせるのであれば3番（多様な個性のある生徒の自立を支える高等専修学校）も入って来るのでないかと思います。2番目3番目の項目の他に、もう少し必要になってくるという部分では仕事で活かせる力、つまりキャリア教育の視点でこちらのパンフレットですと6・7ページの卒業生の所だと思います。子どもたちが配られた時にこのパンフレットをどのように読むのかなと考えた時に、細かくは見ていないと思います。教師がこれを教科書のように扱うのであれば見えてくるものもありますが、せっかく作ったパンフレットをどのように活かしていくかということが重要なと思います。説明会などもあると思いますが、高校生が夢をもって学んでいる専門コースについても私も知っているようで細かいところまでは分からぬ部分も多いです。

普通科の高校に行く生徒もいますが、このようなパフォーマンスなどに興味をもっている生徒もたくさんいますので夢のために一般的な高校卒業ではなく高等専修学校という道もあるというのをアピールする必要があります。せっかく良いパンフレットを作っているので、生徒に浸透させる方法を具体的に現実的に取り組んでいたら良いかと思います。

【樫村 瞳彦 委員 筑西市立関城中学校 校長】

この件に関しては、学校説明会を夏休み中にやっているのですが、ホームページからの申し込みですと、「学校説明会を何で知りましたか」という項目がありまして、ほとんどの生徒さんが中学校の先生から教えてもらったという回答なので、中学校の先生に知っていたら生徒さんに伝えていただくという形で広がっていくと良いかと思います。

昨年の夏から中学校の先生を対象として学校説明会を行いました。茨城県・栃木県から数校ずつご参加いただき、今年度の入試に単願で向けてくださいました。地道にコツコツと広めていき、まずは知っていただく先生が増えていくと良いと思います。

③実際今風に考えると動画的に、文字を見るのではなくて映像で見せて子供たちの興味を惹きつけるというのもひとつかと思います。学校紹介などを生徒達にさせて学校説明会を実施する等、子どもに近い感性でコミュニケーションをしていくのも良いのではないかと思います。

【樫村 瞳彦 委員 筑西市立関城中学校 校長】

このご意見に関しては、実は昨年度の最終の会議で大武先生からご提案いただいた、学校案内のパンフレットをもっていくと同時に学校紹介のDVD（動画で見られるもの）を中学校へ持ってと良いのではないかとアドバイスいただきました。コロナなどの影響でまだ取り組めていないのですが、今年から3年間の事業で、高等専修学校と本校を知ってもらえるようなDVDを完成までもっていけると良いと考えます。

④子どもたちが自由に見られるとするとSNSですね。携帯はいい意味でも悪い意味でも子供たちに浸透しているので面白そうだなと思います。高等専修学校のホームページからリンクで繋がれるようにするのも良いのかと思います。入口の所をどうするかということです。

【樫村 瞳彦 委員 筑西市立関城中学校 校長】

本校でもそれが今のひとつの課題となっており、でやり方次第になります。中学校にお配りしている学校説明会のポスターの中に学校のホームページに繋がるQRコードをつけているが、それに動画のQRコードを載せるという方法もひとつであると考えます。

4年前に、漫画でわかる細谷高等専修学校というのを、漫画の授業を教えに来て下さっている先生に描い

ていただいたことがあるので、それはホームページに載っているのですが、動画は今現在手つかずの為これから模索していく部分もあります。

⑤私の細谷高等専修学校に対するイメージは受け皿。県立高校などの受け皿になっていただき助かっている。不登校だった生徒たちが高校の卒業資格を取れると色々な資格を取れるという印象があります。また、デザインについて学べるなどのイメージがありました。この会に参加するにあたり資料を読ませていただき、4つの特徴が分かり、さらに人間教育をしようとしてくれているのだ、自立支援をしようとしているのだ、また、経済支援もしてくれているのだという印象がありました。経済支援では1か月33000円の学費補助や入学金の補助というのも大きいと思います。そして1番大きいと思ったのはひとりひとりを大切にしている、面倒見がいい。子どもたちの写真を見て介護を目指して頑張ってやっている様子がよく分かりました。最初に事務長さんから話があったように、学校選びの選択肢の中に同等に入っているのかな?と感じるところもあり、そこが一番の課題ではないかと思います。

経済的に不安定なご家庭だったり、5教科は少ないが専門的なものを多く学んで、専門的なものを自分で身に付けられたりします。進路を見た時に5割ちょっとの生徒が就職されていてその他は進学されているようですが、進学するときにどのような進学先に行ったのかをもっと知りたかったなと思います。高等専修学校に行っても水戸南高校の卒業資格も取れるし、大学や専門学校にもいけます。そのような広がりが見えた時に、本人の希望が一番だとは思うのですが、保護者の理解もないと進路を決められない所もあります。生徒や保護者にも高校選びと同じ選択肢なのだと理解できるような何か説明会をやられると良いのかと思いました。とても良いことがたくさん書いてあったので、教育長も、何かするときには協力を惜しまないと伝えてほしいと話していました。

【松本 和能 委員 筑西市教育委員会 指導課 副参事】

本校の進路に関してのデータを見てみると、5割以上が就職になります。専門的なことをたくさんやっていますのでひとりひとり様々な分野の職業に魅力を感じ進学したいという生徒もたくさんいますが、その中で保護者の方の経済的な協力を得られる生徒が進学できるという状況です。保護者からの経済的な支援が難しいと、進学したい専門学校等が明確にあっても現実的には卒業と同時に就職するという生徒も多いです。

大学はほとんどないですが1年前の卒業生にはいました。専門学校が多いのですが、分野については本当に人それぞれで、今年度で言いますと進学は14名決まっていまして、今年度は美容関係が少し増えました。美容師等の学校に進学する生徒が4名いまして、全員美容専攻にいた生徒です。あとは、デザイン関係が2名、eスポーツ（ゲーム）1名、パティシエ1名、調理師1名、保育士1名のような感じですが、進んで行く分野はその年の生徒によって本当に色々と分かれます。介護は資格を取っているので、進学せずに直接就職する生徒が多いです。

⑥不登校の子の自立支援というのがありがたいなと思っています。そのままだと引きこもりになってしまふ心配がある生徒が、ひとりひとりと丁寧に関わっていただくことで社会に出て自立できるようにする学校、素晴らしいと思います。

【松本 和能 委員 筑西市教育委員会 指導課 副参事】

本ご意見に関して、卒業生を含めた本校の生徒の状況を見てみると、本委員会委員の村上先生の福祉施設には、平成17年度から介護の資格取得のご指導を含めお世話になっておりまして、昨年度の卒業生も就職でお世話になっております。介護は多くはないですが毎年一定数希望している生徒がいる職種です。

あとは、最近様々な生徒の受け皿になっていると確かに思うのですが、入試については、受け皿という事も

含めて本校を第一希望で出願して下さる生徒さんが多くなってきています。今の1年生でいうと新入生が52名だったのですが、1回目の単願のみの入試で47名入ってきております。2回目の入試については、併願で受けていても実際には県立高校を受けずに本校に入学を決めたという、実質的に単願のような生徒が多いです。

今年の入試でも1回目の単願のみの入試で43名受験して下さり、県立水戸南高校の卒業資格が取れるコースはそこで全員埋まってしまったような状況です。1月以降の併願を受験する生徒さんはあまりいないので、ほぼ単願で入学してくれるというようになりました。受け皿でもあり、その子にとっては第一希望です、という両方が上手くかみ合ってきているのかと思います。

進路については毎年ハローワークさんに学年ごとに適したお話をいただいているのですが、今年の進学希望者は35%位です。現在未定者は10%位で、それ以外の子たちは就職希望です。結果待ちの生徒も10%位いますが、例年の様子からその子たちも間違なくどこかには就職できるかと考えています。

就職でいうと例年半分強の生徒が就職で、基本的にはハローワークさんに出していくとしている求人票の中から選んで進めさせていただいているのですが、今の生徒の半数が茨城県で残りの約半数が栃木県に住んでおります。とても広い範囲から生徒が通ってきておりますので、ハローワークさんの求人票を見て、生徒の希望している内容にマッチした求人票を出していくような形で進めています。

求人については企業で例年の実績から〇〇高校〇名と夫々の学校に採用を約束しています。希望者が不足した場合は指定枠を外して良いかを聞きまして、他校の方にも紹介したりしています。

また、本校の生徒は高等専修学校卒と県立水戸南高校卒の2つの学歴をもって就職するのですが、ほとんどの生徒が高等専修学校の調査書で試験を受けています。決まりとしても高等専修学校は高卒と同等となっていますので、特に法律上はそれで大丈夫なのですが、実際に企業の立場としてはその辺りはそれほど意識されていないのかという点に関して、益子委員（筑西公共職業安定所 所長）によれば、「企業側には聞いたことがないが基本的には高等学校の様式を使うようにとは指導しています。文科省と厚労省で決めた様式ですのでその履歴書と調査書を使うように指示はしています。」とのことです。

アンケートでも出させていただいたのですが、高等専修学校は進学や就職について高卒と同等となっています。水戸南高校の卒業資格を持っている生徒は県立高校卒業になるのですが、中には高等専修学校だけ卒業するという生徒も毎年います。文科省でも大学入学資格付与指定校ということで大学等への進学について高卒と同等ということが決められています。全国の高等専修学校の集まりの際に伺うと、就職の問題はあまり出てこないのですが、例えば大学進学の場合、大学の入試担当者が大学入学資格について知らないケースがあり、高等専修学校は大学を受験できるのですかみたいな話が出ることがあるようです。そのような事例をひとつひとつお聞きすると、大学入学資格についてなかなか浸透していない場面もあるのかなと感じます。就職の場合も厚労省で高等専修学校の求人要件等について高卒と同等ですということになっているのですが、就職については、そのような問題は今まで特に無いように感じます。学校関係者でさえまだ知らない方がいるので企業の方はなおさら高等専修学校をご存じでないケースは多いかと思います。

このような状況の中、村上委員には毎年本校の生徒をご指導いただいていまして、中には就職までお願いする生徒もあります。時には就職先に本当に困ってしまい、村上委員の会社になんとかお願いして介護の方で育てていただいている生徒もいるのですが、その生徒たちの様子を伺った。

⑦社会福祉士でもありますのでスクールソーシャルワーカーとして現在筑西市を担当しております。もともとは教育関係の会社であり介護保険ができた時からホームヘルパーの資格講座も県知事の認可で行っております。そのご縁がありまして細谷高等専修学校さんにもやらせていただいております。

始まった当時は人数が少なくて3年間に1度3学年合同で講座を開催していました。ここ何年かは生徒も増

えてきたので毎年やっています。また、水戸南高校との技能連携科目（1年生）を6年前から教えています。介護の資格取得関係は、2年生でやっています。

ホームヘルパーの養成については、高等専修学校のガイドブックの9ページに私のコメントを載せさせていただいたのですが、基本的には福祉の仕事は比較的資格よりも人格の世界であり、テストの点数が取れる事と良い仕事が出来る事が一致するわけではなく、人柄が優しくてお年寄りや障害者を見た時に助けてあげようという事を思うかどうかということが重要な仕事です。ここにも書かせていただきましたがそのような面では細谷学園の生徒たちは成績が優秀というよりは色々な趣味などがありアニメやイラストなど多趣味の方が多く、友達同士でも仲良くされている学校ですのでとても良いと思います。この業界は人手不足なので毎年希望者がいれば受け入れていきたいと思っています。私どもの施設はつくば市にありますので、筑西市や真岡市からだと通勤が難しい面もあるのですが、もし下妻市や常総市など比較的県南の方面の生徒がいれば良い方がいればお受けすることができます。実際のところ2年生で講座をやっていますが苦労しつつも最終的には介護の資格を取得するところまでやっています。それをもって福祉系に就職される方は毎年います。卒業してからも活躍している生徒の状況についてSNS等で報告がありますが、この業界で頑張ってくれているので嬉しいです。今後はキャリア教育みたいなものは益々必要になっていくと思いますし、生徒を見ている立場としては不登校の生徒の増加というところで、細谷学園に求められる役割というのは大変強いのではないかと思います。これからも協力出来るところは協力していきたいと思います。

【村上 義孝 委員 株式会社つくばエデュース 代表】

介護の資格は、介護の仕事をするかしないかに関わらず、これから高齢化が進んで行く中で、ご家族で介護が必要になるといった状況も増えてくるかもしれない、今の段階で体系的に学習しておくというのはとても良いかと思います。福祉に興味を持つかどうかは個人差がありますが、学習していく中で介護や福祉に興味を持った子は仕事として進んでいくことが出来ます。ただ、つくばまでは通勤が困難な状況も多く、1年前に村上先生の会社でお世話になった生徒も自宅が友部でしたので、つくばではなく石岡市の施設にお世話になっています。就職の方向性がなかなか決まりませんでしたが、迷いましたが大変助かりました。

専門科目ですと昭和の頃は服飾から始まりまして、その後介護、保育、クリエーター（声優・マンガ・動画など）、パフォーマー（声優、ボイストレーニング、ダンス、演劇・フィットネスなど）が増えてきて専門の先生に来ていただきご指導していただき、最近では美容関係でネイル・ヘアメイクなども取り入れ、5つの分野に分かれています。たくさんの科目が増えてきた頃から委員の上野先生にお世話になっております。それまでは中学校の状況なども分からぬ部分が多くあったのですが、上野先生にアドバイスをいただいたりしながら少しずつ生徒が増えてきたような感じです。はじめてお世話になった最初の頃はもう少し生徒が少なかったと思います。コロナが拡大する前まですると文化祭の様子なども毎年ご覧いただけました。

⑧私は理事になる前は、この学園のイメージが女子のイメージが強くてただ、文化祭を見せてもらったり、入学式・卒業式に関わったりしながら思う事は、だんだん変わってきているという事です。男子が入ったことにより活気が出てきています。男女共学の良さがある。学校としては大変だったと思います。非常に良い学校運営になっているなど実感しています。

これから生徒にとっても保護者にとっても地域にとっても更に良い学校になっていくなという事について感じる事をお話ししたいと思いますが、まず細谷学園は地域振興分科会に入っているわけですね。地域振興分科会というのは何を目指しているのか。ここ（事業計画書）に具体的な取り組みがいくつか出ています。具体的な取り組みを実際どのようにして、実際に取り入れられるのは何なのかを考えていくことが重要になります。高等専修学校の4つの特徴がありますが、この分科会で関わっていける所はどこなのか。私が感じる

のは1番の「仕事に活かせる資格を取得できる高等専修学校」、これは結構やっていると感じます。学校でやっていることをもっと外部に知ってもらう。文化祭でも良い作品が展示されています。それを例えればバザーのような形で地域の人に知ってもらう。仕事とは言わないがそのような事もあります。2番目の「不登校経験者の自立を支える。」これには生徒たちに自信と誇りを持たせるということが大切です。自信と誇りを持たせるためには外に出なければならない。コミュニケーションが弱い子が外に出ることによって自分の力に自信がつく。具体的にどのようなことができるのか。できれば駅前の街頭キャンペーン、また、大型スーパー・キャンペーンに参加する。赤い羽根共同募金・禁煙教育・人権尊重キャンペーンなど結構やっているので主催者と連携しながら生徒をどんどん外に出す。外と関わることによって自信と誇りが持てるようになる。それは3番目の「多様な個性」にも合うことになる。文化祭で感じるのは、子供はすごいものを持っている。音楽やパフォーマンスにしても演劇など…そのようなものを持っているから個性の発揮できる場所として外へ出していく。外部への認知力というのは外に出て行かないといけない。また、このメンバーに高校の先生が入ってこないといけないと思う。市内で1校2校。鬼怒商や下館工業高校そのような先生が入ってくることで高校との繋がりができる。高校で中退してしまった生徒がここで救われるということもあるかもしれない。4番目の「夢の実現」は他の3つに関係する。何が大切かという志を立てるということ。私はどんな人間になりたいのか、私はどんな風に生きていくのか、そのような意味では志をしっかり立てるということだと思う。

中学2年生で立志式というのをやっています。だいたいそこで志を立てるわけです。でも人によっては、人間の成長過程というものは幅があるわけですから高校で志を立てることもあります。自分をよく見つめて自分が何になりたいか。そのようなことを言ってもつかめないのも現実。特に自信がない子は…そのきっかけ作りのためにハローワークの方に話を聞いていただいたりまたはアイネットという引きこもりや不登校サポートをしている方（浅沼さん）に話をしてもらったりするなど機会を作つてあげれば志を立てるということが出来るようになるのではと思います。色々感じることを言いましたが、もっとこの学園を活性化させたいということでそんなことも考えていただければいいなと思いました。

【上野 恵 委員

学校法人細谷学園 理事】

不登校から自信をつけてうまい具合に歯車が回っていくというので、外に出るとまた1段階上の自信がつくと思います。ただ、ギリギリのところで自信をついている子もいるのでなるべく失敗させたくないというのもあります。いろいろな科目を学習していますが、そこに興味をもてればその先に進めるが、その手前の段階の生徒もいるので外していくならどのようなものが良いのか、お話を聞きながら考えていたのですが、何年か前に筑西市のだるま市というイベントに参加したことがあります。生徒たちが作った半纏や洋服を売ったのですが、その時は大成功に終わり参加した生徒達が自信をつけて生き生きとしながら帰ってきました。準備はすごく大変で売るのはあっという間だったのですが、そのような事を企画しながら進めていくのもひとつかと思います。音楽ですとミュージックデザインという科目がありゼロからやっていきましょうというスタンスなのですが、好きな生徒は自分の世界に入りきってやっている人もいます。ただ、ゼロからのスタートですので完成度については非常に微妙なラインかと思う部分もあるのですが、そこを外に出して良いのか悩むところもあります。ただ、それそれに楽しみながら上手くいったという喜びを体験してもらいたいとは思っています。それがひとつの自信につながるのかと思います。最後までやりきれた感じとかを体験させてあげたいと思います。

2. 中学校と高等専修学校の連携体制及び企業と高等専修学校の連携体制について

来年度にむけて中学校と高等専修学校の連携体制について、企業・ハローワークと高等専修学校の連携体制について、こちらについても新たな連携体制も含めて色々と広がりが出来てくると良いと思います。現時点の連携ということですと、ハローワークさんとは毎年1年生～3年生までご高話をいただいております。今年度

はコロナ拡大の関係でスケジュールが組めませんでしたが、例年ですと各学年それぞれに合わせた内容でご講話ををお願いしております。中学校の先生方につきましては、学校案内等を年に2回お届けさせていただいております。学校説明会は中学生と保護者の方でご参加いただくことが多いですが、先生も一緒にご参加くださる時もあります。

今年度に関しては中学生や保護者の方の日程とは別に、先生を対象とした説明会を実施させていただき、茨城県・栃木県の両方で5~6名の先生方がご出席くださいました。

来年度にむけて今現在の連携以外に新たな連携のアイディアとして、1つは学校紹介のDVDを作成し中学校へ配布するということも検討しています。新たな連携の内容に関しましては3年間の事業の着地点ですので来年度・再来年度で何か形に出来ればと考えています。本テーマに関して委員のご意見を以下にまとめた。

①他の団体機関との連携というのも含めてだと思いますが、先ほど学校のPRの絡みで各中学校でのPRはもちろんなのですがスクールソーシャルワーカーで県西を担当して3年なのですが、下妻市・常総市の保護者の方が細谷学園のOGなのです、といったお話を3件くらい言わされました。お子さんが小中学校にて、「今、共学になったこと知っていますか?」「そうなんですね」みたいな会話を聞くとOGさんたちのお子さんが小中学校にいらっしゃるのかなと思います。

あと裁縫女学校のイメージが強いように感じます。今、男子もいて楽しい学校なのですという内容を伝えるのに、卒業生のネットワークを活用できると良いのではないかと思いますし入学希望者の増加にも繋がるのではないかと思います。

もう1点、先ほど上野先生からもありましたようにフリースクール・不登校支援関係も、茨城県では昨年あたりからフリースクールに行っているお子さんの学費の補助(低所得者)が始まりました。筑西市はじめ、フリースクールなどの団体の方にお話しを聞いたり、逆に空いているときに学校を貸し出したり、保育園・幼稚園で園庭開放というのをやっているので、そのようなことや、音楽の授業が受けられるなど単発でもやってみると良いのではないでしょうか。すぐにはできないかもしれません、そのようなネットワークも良いかと思います。

【村上 義孝 委員 株式会社つくばエデュース 代表】

何らかの形でそのような子が見に来られるような日を設定するようにしていくと良いと思います。今は中学生対象の学校説明会で夏休みに集中して来て下さっているのですが、生徒が日常生活を送っているところは見に来てくださる機会がなかなか無いのであった方が良いのであれば少し検討していけたらと思います。

②学校説明会について、普通高校ですと説明会を行った後、先輩が優しかったなどと先輩との関わりをよく学校で聞きます。中学校では学校説明会は生徒に任せています。生徒の目線で割と楽しくやってくれています。私たち大人が考えると固くなってしまします。子供のアイディアをちょっと工夫していくと説明会の在り方も変わってくる気がします。回数も大切だと思いますが生徒を少し使いながら内容を変えていくような事も良いのではないでしょうか。

夏休み60名来るのであればその時期に実施すると効果が大きいのではないかと思います。見学に来る生徒にアピールすれば良いのではと思います。

説明会後の授業の様子は見ていないのでわかりませんが、個性のある子供たちなのでしょうから例えば説明会企画委員会を作ってどんどん作っていけばもしかしたら面白い説明会ができるのではないかと思います。大人はどうしてもかたいので子供のアイディアですごいと思うこともあります、それで子供たちも自己表現もできるし、生徒を使って内側からアピールするのも良いのではないでしょうか。

【檍村 瞳彦 委員 筑西市立関城中学校 校長】

3. まとめ

初年度は高等専修学校を取り巻く現状の確認という事が中心になってしまいますが、2年目3年目でより良い地域連携の新しい方策等も含めて何か茨城県の場合はこのような連携が出来ましたというような着地が出来ればとても良いと思います。

【参考資料】

地域連携委員会（茨城地区）実施データ

○実施日時：令和4年1月25日（火）14：00～15：30

○実施場所：細谷高等専修学校 新ホール

○参加委員：益子 寿浩	筑西公共職業安定所 所長
松本 和能	筑西市教育委員会 指導課 副参事
柴山 勝利	筑西市立下館南中学校 校長
樺村 瞳彦	筑西市立関城中学校 校長
上野 怜	学校法人細谷学園 理事
村上 義孝	株式会社つくばエデュース 代表
細谷 貢	細谷高等専修学校 校長
細谷 恭子	細谷高等専修学校 教頭
細谷 祥之	細谷高等専修学校 事務長

（以上9名）

3-4 神奈川県（担当校：岩谷学園高等専修学校）

文部科学省委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

高等専修学校の学びの「セーフティーネット」

令和3年度 地域連携委員会（神奈川地区）実施報告

開催校 学校法人岩谷学園 岩谷学園高等専修学校

第1回地域連携委員会実施報告

1. はじめに

コロナの状況（働けない状況）などにより、若い方々が働くとはどういうことか？職業教育とは？職業選択を考えるきっかけとなった。また、高等専修学校の入学数も増えているが、中学校や保護者の方々にはまだまだ浸透していないのが現状である。文部科学省や役所では高等学校とある程度同等に扱うという方向性となっているが、それと同時に、学校、地域、役所が連携して高等専修学校の強みをより一層周知できるよう、またさらなる質の向上を考え（進めていきながら）中学校や保護者の方々にしっかり周知徹底をしていく必要がある。

【神奈川県専修学校各種学校協会 会長 清水会長】

高等専修学校の良さや取り組みを県の校長会や学校などに周知しながら取り組んでいる。日頃から高等専修学校では進学だけでなく、幅広い進路「進路学習」として「仕事のまなび場 Jr」などで関わっていただいている。

学びのセーフティーネットでは、不登校の生徒や様々な生徒に関して、いずれ社会に出て仕事に就くということをしっかりと考え方、技術を身につけるなど様々な視点から高等専修学校と関りを持っていく必要があると感じる。現在：中学3年生進路に向けて面談などを行い、具体的に進路が定まってきている状況。

課題：中学校教員の年齢が若くなってきており、進路を考えるうえで重要な役割を担っている先生方に高等専修学校の役割などをしっかり指導していく必要がある。

【神奈川県公立中学校校長会 会長 上條委員】

2. アンケート調査研究等について（昨年度実施アンケート結果について）

アンケート対象：神奈川県内50校 中学校教員153名

高等専修学校を知っているか？

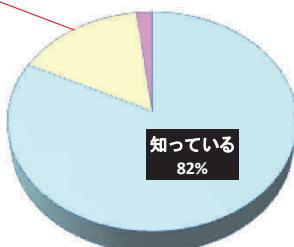
→8~9割が知っている（聞いたことがある）

《質問1》高等専修学校について

知っている	126
聞いた事がある	24
知らない	3
合 計	153

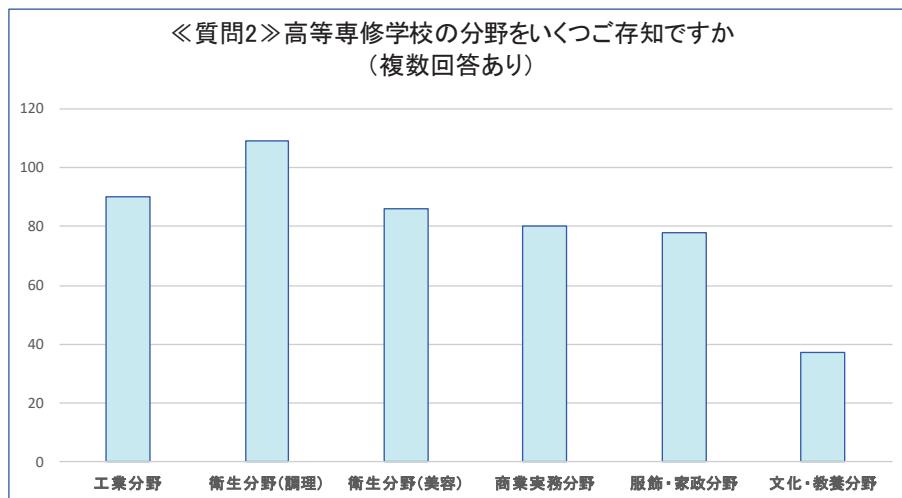
《質問1》高等専修学校について

聞いた事がある 16% 知らない 2%



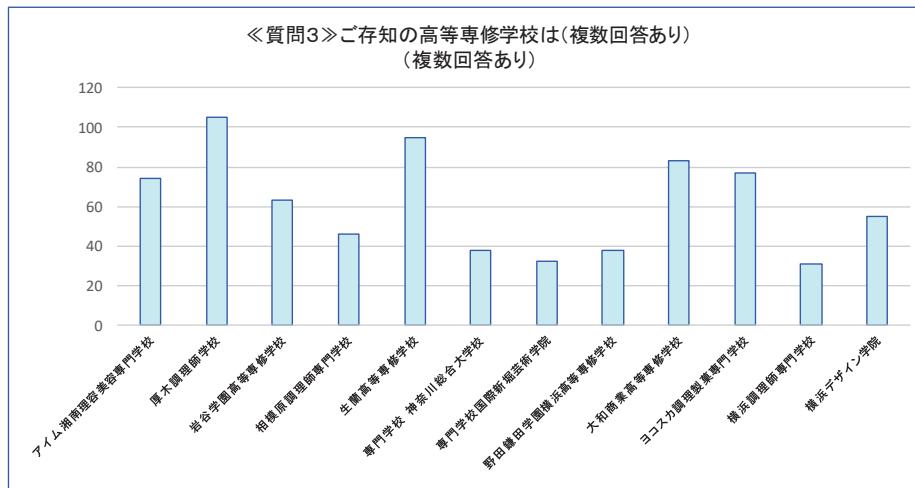
《質問2》高等専修学校の分野をいくつご存知ですか（複数回答あり）
 (回答者数：153名)

工業分野	90	回答者数による比率	58.8%
衛生分野（調理）	109		71.2%
衛生分野（美容）	86		56.2%
商業実務分野	80		52.3%
服飾・家政分野	78		51.0%
文化・教養分野	37		24.2%



《質問3》ご存知の高等専修学校（複数回答あり：回答者数153名）

アイム湘南理容美容専門学校	74	回答者数による比率	48.4%
厚木調理師学校	105		68.6%
岩谷学園高等専修学校	63		41.2%
相模原調理師専門学校	46		30.1%
生蘭高等専修学校	95		62.1%
専門学校 神奈川総合大学校	38		24.8%
専門学校国際新堀芸術学院	32		20.9%
野田鍼灸学園横浜高等専修学校	38		24.8%
大和商業高等専修学校	83		54.2%
ヨコスカ調理製菓専門学校	77		50.3%
横浜調理師専門学校	31		20.3%
横浜デザイン学院	55		35.9%



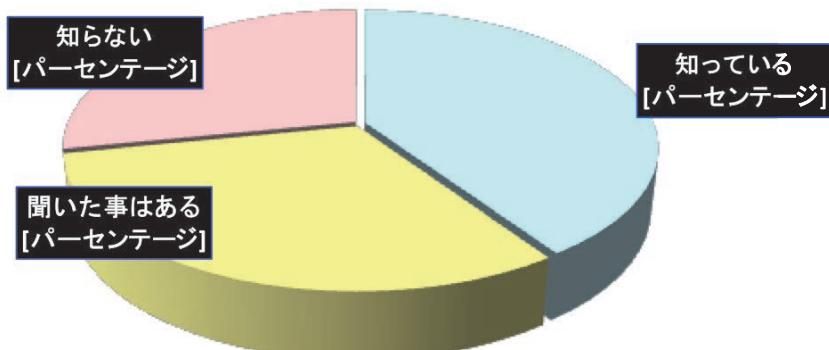
支援の必要な生徒を受入れる高等専修学校があることを知っているか？

→聞いたことがない（48名）・知らない（43名）と非常に多く、神奈川、全国的にも支援の受け入れが非常に多くなってきている。この部分を周知していく必要がある

《質問4》 支援の必要な生徒の受入れについて

知っている	62
聞いた事はある	48
知らない	43
合 計	153

《質問4》 支援の必要な生徒の受入れについて



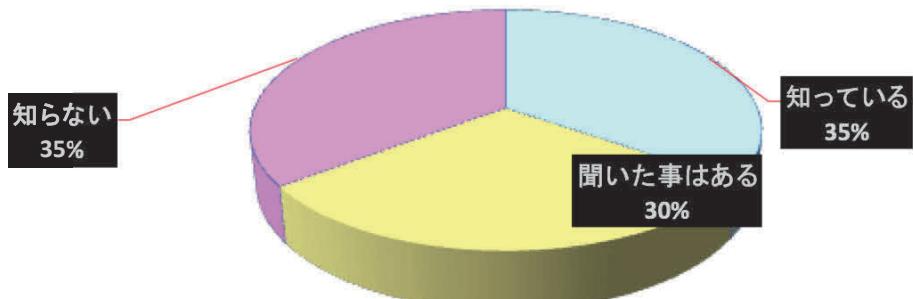
私立高校と同額支援を受けることができることを知っているか？

→知らない（54名）と非常に多い

《質問5》 私立高校と同額の支援制度があることについて

知っている	53
聞いた事はある	46
知らない	54
合 計	153

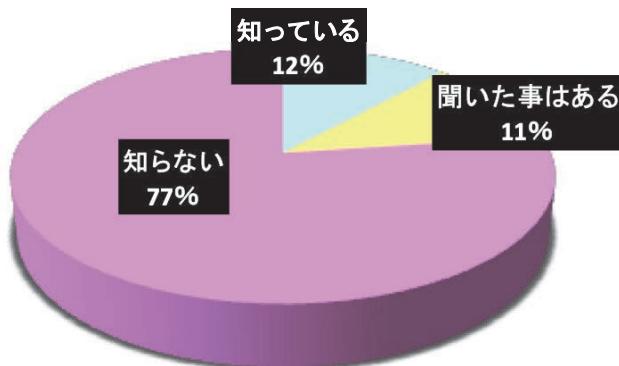
《質問5》 私立高校と同額支援制度について



《質問6》仕事のまなび場Jrをご存知ですか

知っている	18
聞いた事はある	17
知らない	118
合 計	153

《質問6》中学校卒業後の進学先に高等専修学校を紹介したことがありますか



<国の高等学校等就学支援金>

- ・最大396,000円／最低118,800円の支援が受けられる（年収によって異なる）

<県の私立専修学校高等課程生徒学費補助金制度>

- ・神奈川県のみ県の支援が受けられる制度入学金208,000円 授業料48,000円などの支援を受けることができる。

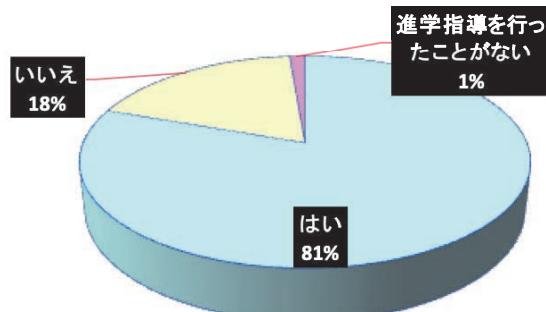
中学校卒業の進学先に高等専修学校を紹介したことがあるか？

→はい（123名）非常に多くの先生方にご協力をいただいている

《質問7》中学校卒業後の進学先に高等専修学校を紹介したことがありますか

はい	123
いいえ	28
進学指導を行ったことがない	2
合 計	153

《質問7》中学校卒業後の進学先に高等専修学校を紹介したことがありますか

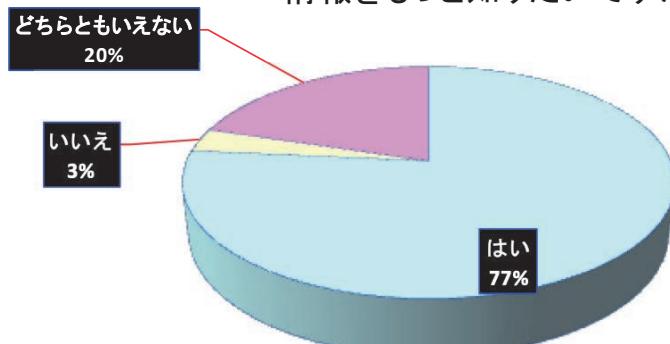


機会があれば高等専修学校の情報をもっと知りたいか?
→はい（117名）もっと知りたいと思っている先生方が多い。

《質問8》機会があれば高等専修学校の情報をもっと知りたいですか

はい	117
いいえ	5
どちらともいえない	31
合 計	153

《質問8》機会があれば高等専修学校の情報をもっと知りたいですか

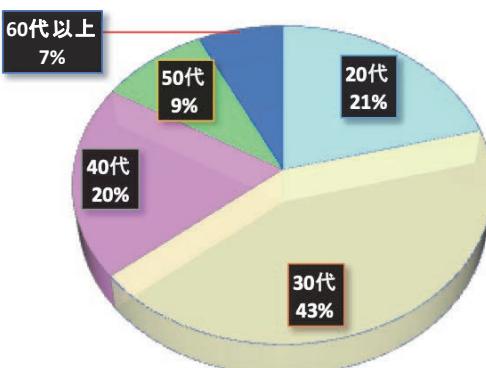


年齢が上の方50～60代の先生は割と知っている方が多いが、20～30代もしくは40代も含め高等専修学校を知っているがどういったところなのかが分からぬ方が多くいる。この数値からももっと情報を知りたいと思っている先生が多くいる。

《質問9》先生の年齢を教えてください

20代	32
30代	66
40代	30
50代	14
60代以上	11
合 計	153

《質問9》先生の年齢を教えてください



3. 意見交換

以上の内容を踏まえ、各委員からの高等専修学校の認知や周知についての意見を以下にまとめた。

【折笠委員】

- ・県立高校の専門コースについてもやはり人気がない。特に商業系はなかなか難しいのが現状。実際には、専門コースに来ている生徒は、早いうちから職業を見据えた生徒が多い。美容師や調理師など明確なものは職業に直結していて分かりやすいが、商業系はなかなか難しい。柔軟な特色を打ち出し、オンリーワンを目指す仕掛けが必要になってくる。
- ・支援が必要な生徒やみんなとワイワイするのが苦手な生徒たちが「心の交流」をもち、みんなで社会の荒波に挑戦する勇気を身につけていければ・・・高等専修学校が一つの進路選択になればいいのではないか。そういう情報発信になっていけばいいのではないか。

【清水会長】

- ・インクルーシブ教育：3校から14校へ増えている（自分で通えることが条件となる）
- ・「仕事のまなび場 Jr」スタートして2~3年。就労の育成、早い段階での進路決定へと進められる。
- ・早い段階（小学生くらい）から職業教育（実践学習）ができるようになっていくことの必要性。
- ・学びのセーフティーネットを活用しながらの人材育成どうするかを考えていく。

【笹谷委員】

- ・インクルーシブ高校：現在は定員に近い人数の生徒が入学している。最初は入学する生徒が少なかったが、認知されるのに5年くらい時間がかった。丁寧に行っていくことで3~5年で認知されるようになる。また学力については、能力、適性にかなり差があり、一人ひとりの対応が必要となっている。

【中村委員】

- ・中学3年生で自分の進路、職業を見越した（決めている）生徒は少ない。もちろん決めている生徒もいるが、なんとなく漠然と良い高校、良い大学へ行きたい、行かせたいと思っている方が多い。小学校から塾に通い、中学校に入り、職業教育の視点（進路学習や経験）がないので、この時期の認知はなかなか難しい。
- ・小学校・幼稚期から職業教育をしていかないと難しいのではないか。中学校では遅いのでは。以前視察に訪れたスイスでは、中学校卒業とともに職業選択をしている。日本の教育制度から考えていかなくてはいけないのではないか。

【大田副会長】

- ・今の子供たちは仕事が見づらく将来の選択肢が少ない。昔は小学校・中学校（9年間）身近な場所（親や近所）で仕事（職業）が見えていた。イメージをつけやすかったことで、選択肢が自分なりにできていたのでは。
- ・「仕事のまなび場 Jr」の取り組みは良い刺激となっている。成果物の中から評価もあり、中学校の3年間の中で少しずつでもイメージを作ってあげる機会は非常に大切ではないかと。

【上條委員】

○進学に対する考え方

- ・昔：「第1：公立高校 第2：私立高校 第3：就職」 → 公立離れ、私学へ移行している。通信制を選択する生徒も増えてきている。社会の変化、多様化する中でこの先もっと動いていくであろう。
- ・人生が豊かになるとは、

昔：大学卒業→就職→給料→家を建てる・・・

今：「自分の興味関心の高い職業に就いて人生が豊かになることを目指す」ことに考え方シフトしていくのでは（ユーチューバー）

○社会が変わってきたり

- ・情報発信（一人1台端末）授業の道具の一つになっている。考えていかなければならないことは、高等専修学校の良さや学校生活の情報を端末から気軽に収集できる環境整備が必要。
- ・興味関心を持ったことを進めていく。高等学校と変わらない同じように勉強や学校生活を送れる。ということを保護者や生徒たちに知ってもらうためのイメージ戦略を立てる。
- ・県立高校では様々な学科（コース）を新設している。新しく特殊性を持つことで「行きたい！」「学びたい！」と思える環境づくり。社会の変化によりこういったことが色濃く必要になってくるのではないか。

【笹谷委員】

他県の状況：徳島県や静岡など他県では、卒業後に資格取得のための取り組みや、長野県では車の免許を取得するための勉強など、「この県で働きたい」「この県で働いてほしい」という気持ちから様々な取り組みを行っている。また、コロナの影響により益々近い学校への進学を進める傾向にある。

神奈川県の子供たち（生まれ育った）に対しても、小・中・高校のみなさんが、「神奈川で育てて神奈川で働いてもらう」という共通の認識で職業教育を行う必要があるのではないか。

【宮田委員】

- ・児童養護施設（18～22歳）では、その子に応じた教育ということが大切になってくる。
- ・私が児童養護施設に携わった45年前頃は児童の進学は公立高校が基本で、難しい児童は中卒就職が一般的であった。現在に至っては、教育基本法第3条のすべての国民は、ひとしくその能力に応ずる教育を受ける機会を！同一に教育を与えるだけでなく、個人差に応じる教育を施すものとして、児童養護施設からは私立高校、専修学校等への進学の門戸が広がっており、大学進学も可能になってきている。

- ・進路を考えていくうえで、中学校ではなく小学校の幼少期に進路の目標を持たせる必要があるのではないか。

【参考】高濱正伸：10歳までに身につけたい5つの基礎力（子供が自立・自活できる大人になるために必要な基礎力）「言葉の力」「自分で考える力」「想い浮かべる力」「試そうとする力」「やり抜く力」

- ・児童養護施設はどんなところ？学校の先生方に実際に来てもらい、現状を見てもらい知ってもらう。
- ・現在関わっている大学の社会学部で学生に聞いてみると、「福祉の現場に就職の意向のある生徒は少数で、大学のネームバリューと入学しやすい学部を選んできたのか」と思うことがあった。

→どんな仕事をしたいか、そしてどんな勉強をしなければいけないのかをイメージさせなければいけない。

【甲方委員】

・iビリーブ：就労移行支援事業所（福祉機関）企業でも上級学校でもない。発達障害の子供たちが対象（自分が決められない）どう考えていったらよいか分からない。何をしたらよいのか分からない、決められない。どういう段取りが必要なのか分からない。岩谷学園高等専修学校の授業を行うなど交流することで支援を行っている。

- ・「非定型」の方→「定型の社会の中で生きていくためにどういう段取りが必要なのか」

→学校や学校外（福祉機関等）との連携が必要になってくる

「福祉機関」と「教育機関」仲良くならなければならないが、高等専修学校との連携はスムーズだが、県立学校との連携は非常に難しいのが現状である。早い時期に「支援」というのはどういうものなのか、iビリーブのような福祉機関もあるということを知ってもらう必要がある。全部できるわけではない。その中ですごくできる部

分があり、そこを仕事にできるようにするために支援が必要。

- ・コロナの影響により行き場が少なくなり、福祉（就労移行等）の活用が増えてきている。

→ほとんどが発達障害の方々

出来ることは何か？就労の道を一緒に考え、付き合っていくその道のり（プロセス）が高等専修学校には一番大切ではないか。発達障害の方々に焦点を当て、取り組んでいくのが良いのではないかと考える。（特別支援学級のみだったこと）

【志村委員】

・中学校訪問：高等専修学校の深いご理解をいただいている先生もいれば、何が違うのか分からない先生方もいらっしゃる。理解に対する差はあるが、数十年前よりも確実に理解者が増えていると実感している。

・中学校の先生に高等専修学校を紹介しづらいか聞いてみる、保護者に対しいきなり「高等専修学校どうですか？」と直球では言いづらい。何段階か経てようやく紹介できる。

本校に入学したあと保護者から「こういう学校があったことをもっと早く知りたかった」というケースもあり情報発信の難しさを実感する。

- ・保護者と先生との共通目標：「自立」不登校・発達障害の生徒が、高校卒業後、二十歳以降

→良い教育の提供（情報配信：学校生活などを動画配信できればと思うが、個人情報の観点もあり難しさもある）

4. まとめ

【神奈川県公立中学校長会 副会長 中村委員】

・高等専修学校の周知徹底の重要性・職業教育・発達障害の支援等・生きる力（【参考】全日本中学校長会 静岡大会 講師：池谷裕二（脳学者））

・小学生の夢は？（つきたい職業は）65%が夢は叶わない→65%の職業は先々ないであろう。残り35%に向かって考えなければいけない。今後子供たちが減少し、日本の人口が減り、この先産業はどうなっていくのか・・・そんなことも関係してくるではないか。

【神奈川県専修学校各種学校協会 副会長 大田委員】

・「チーム高等専修」として認知を徹底し、子供たちがそれぞれの環境の中でどう適応させていくか課題となってくる。1年後さらにステップアップしていきたいと考えている。

第2回地域連携員会報告

1. はじめに

コロナの状況が昨年から続いておりますが、本日は「アンケート集計結果」「高等専修学校等3校による事例紹介」とありますので、皆様の貴重なご意見をお聞かせいただき、高等専修学校の改善等行ってまいりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

「平塚養護学校」様より高校3年生対象講座【社会人のベースメイク】の依頼。（40名中9名社会人）コロナの影響により実施できず、オンライン（Google Meet）での開催となる。生徒さんは大喜びで、明るい表情、きれいになったなどのいい場面を見ることができ、また担当の先生も熱心に生徒指導を行っており、良い形で教育ができていると感じた。

生徒が主体で、私たちはどのような形でアシストしてあげればよいかを考えていく必要がある。そしてそれが「学びのセーフティーネット」へつながっていくと思いますので引き続きよろしくお願いいたします。

【神奈川県専修学校各種学校協会 副会長 大田委員】

本校3年生、コロナの中で進路選択が思うように動けない中（夏の説明会・個別学校説明等中止）、ある生徒が、公立高校やサポート校などいろいろ考える中、高等専修学校の説明会に参加し、自分の目で学校を見て、今後の3年間の高校生活のイメージがしっかりできた。この学校で頑張っていきたいと意思表示し進路を決めることができた。生徒が実際に見て、話を聞き、3年間の高校生活のイメージができることがとても大切だと感じた。本日のアンケート結果を見ると、興味深い数字があると思うので、いかに生徒が埋もれていかないよう手を差し伸べられるよう中学校でも生徒指導をしていかなければいけないと感じる。

「百聞は一見に如かず」人から話を聞いて決めるではなく自分で実際に見て、ここで頑張ろうと思えることが大切。本日の会議がまた次年度以降にしっかりとつながるよう取り組んでいければと思いますのでよろしくお願ひいたします。

【神奈川県公立中学校校長会 会長 上條委員】

2. 2021年度アンケート集計の報告

資料：「高等専修学校」の認知度調査アンケート 集計結果

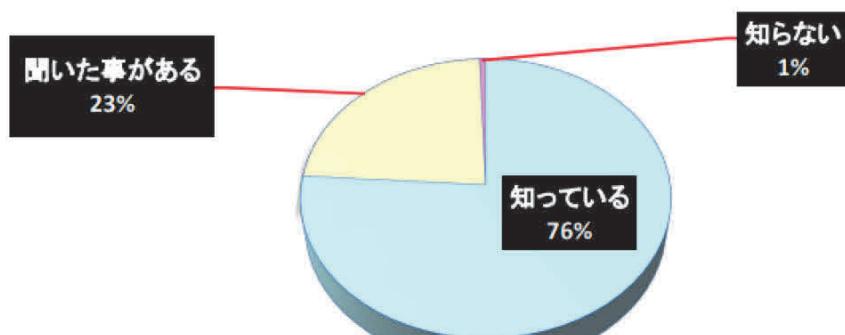
<質問1>高等専修学校について

概ね知っているという方が多かった。「聞いた事がない」「知らない」という人にどう訴求していくかということが重要。

《質問1》高等専修学校について

知っている	127
聞いた事がある	39
知らない	1
合 計	167

《質問1》高等専修学校について

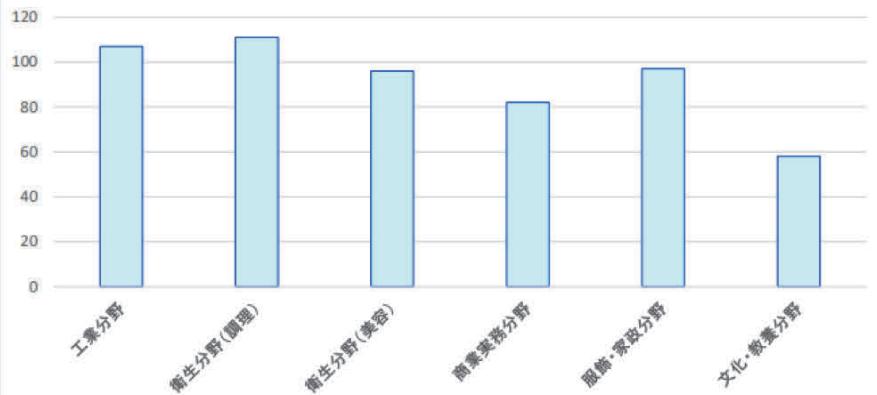


<質問2>高等専修学校をいくつご存じですか？

**《質問2》高等専修学校の分野をいくつご存知ですか（複数回答あり）
(回答者数：167名)**

工業分野	107	回答者数による比率	64.1%
衛生分野（調理）	111		66.5%
衛生分野（美容）	96		57.5%
商業実務分野	82		49.1%
服飾・家政分野	97		58.1%
文化・教養分野	58		34.7%

**《質問2》高等専修学校の分野をいくつご存知ですか
(複数回答あり)**



<資料3>ご存知の高等専修学校（複数回答あり）

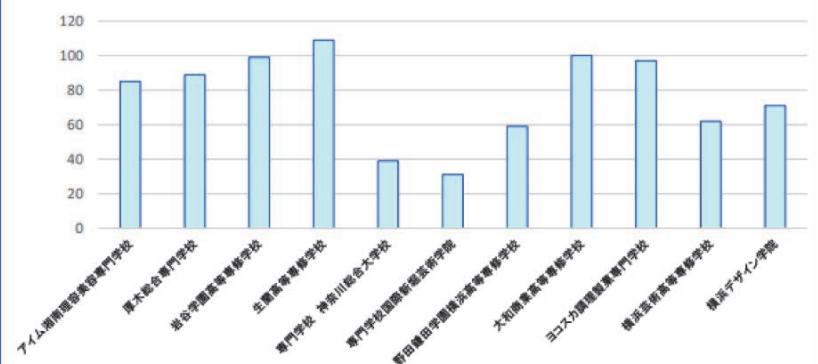
地域性もあるかもしれません、まだ周知が足りないと感じる。今回も新しい学校を踏まえた神奈川県専修学校パンフレットを入れておりますので周知のご協力いただければと思います。

低いところでいうと、「神奈川総合大学校」厚木にある学校。「専門学校国際新堀芸術学院」藤沢にある学校。「横浜芸術高等専修学校」最近新しく参加した学校。

《質問3》ご存知の高等専修学校（複数回答あり：回答者数167名）

アイム湘南理容美容専門学校	85	回答者数による比率	50.9%
厚木総合専門学校	89		53.3%
岩谷学園高等専修学校	99		59.3%
生蘭高等専修学校	109		65.3%
専門学校 神奈川総合大学校	39		23.4%
専門学校国際新堀芸術学院	31		18.6%
野田謙田学園横浜高等専修学校	59		35.3%
大和商業高等専修学校	100		59.9%
ヨコスカ調理製菓専門学校	97		58.1%
横浜芸術高等専修学校	62		37.1%
横浜デザイン学院	71		42.5%

《質問3》ご存知の高等専修学校は（複数回答あり）



<質問4> 支援の必要な生徒の受け入れについて

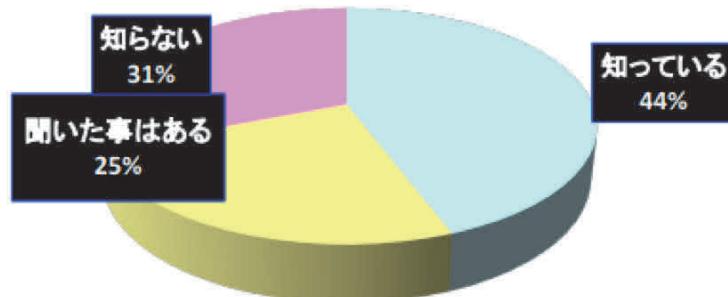
セーフティーネットの本質部分になるかと思う

「聞いた事はある」「知らない」非常に多い。この後の3校の事例発表を含め支援の必要な生徒の受け入れを高等専修学校がしっかり行っていることの周知方法等について議論させていただければと思う。

《質問4》 支援の必要な生徒の受け入れについて

知っている	73
聞いた事はある	41
知らない	51
合 計	165

《質問4》 支援の必要な生徒の受け入れについて



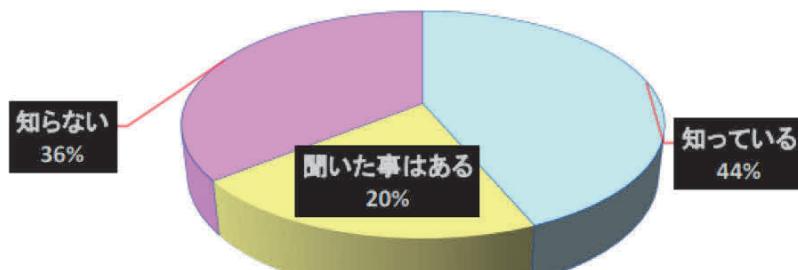
<質問5> 私立高校と同額の支援制度があることについて

質問4同様「聞いた事はある」「知らない」非常に多い。以前上條委員からも「しっかり周知した方が良い」というご意見もいただいている。

《質問5》 私立高校と同額の支援制度があることについて

知っている	72
聞いた事はある	34
知らない	59
合 計	165

《質問5》 私立高校と同額支援制度について



【辻野委員】

神奈川県では、私立の高校に対し国と県で支援を受けることができる。（最大44,4万円）高等専修学校についても神奈川県に認可されているため私立高校と同じように支援を受けることができる。支援制度があることを知らない保護者の方が多く、手厚い学校であるがお金が厳しいというご家庭が多いため、この制度を知るということで進路の幅が広がる。周知徹底が重要になると感じる。

<ニュース>2022年4月より「4人家族・年収700万円以上800万円未満世帯」も対象になる。

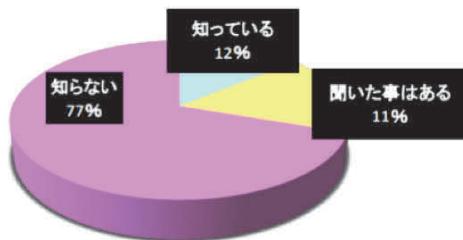
※「15歳以上25歳未満の3人の兄弟がいること」が条件になっており厳しい状況である。

<質問6・7・8>については、神奈川県専修学校各種学校協会で実施している行事になる。委員の方で周知していく。

《質問6》仕事のまなび場Jrをご存知ですか

知っている	23
聞いた事はある	27
知らない	115
合 計	165

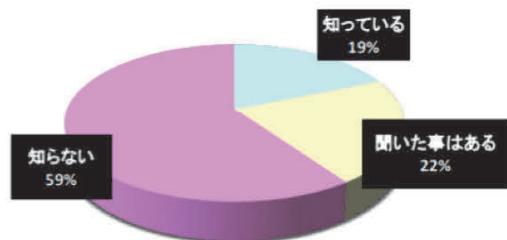
《質問6》仕事の学び場Jrをご存知ですか



《質問7》高等専修学校展についてご存知ですか

知っている	31
聞いた事はある	36
知らない	99
合 計	166

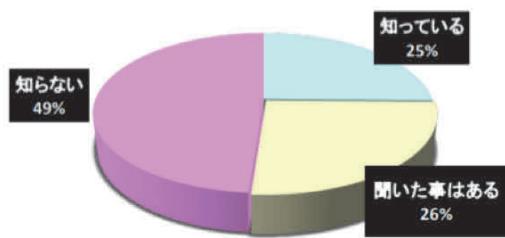
《質問7》高等専修学校展についてご存知ですか



《質問8》高等専修学校進学説明会をご存知ですか

知っている	42
聞いた事はある	43
知らない	81
合 計	166

《質問8》高等専修学校進学説明会をご存知ですか



<質問9>高等専修学校のDVDはご存じですか

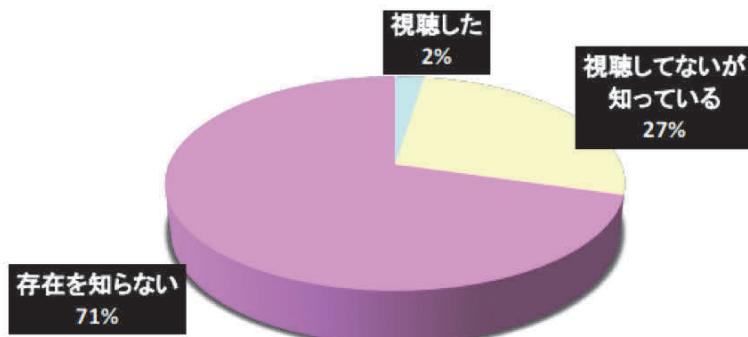
高等専修学校でDVDを作成している。各学校様に配布。

「視聴した」4名、「視聴していないが知っている」45名、「存在を知らない」117名。

《質問9》 高等専修学校のDVDはご存知ですか

視聴した	4
視聴していないが知っている	45
存在を知らない	117
合 計	166

《質問9》高等専修学校のDVDはご存知ですか



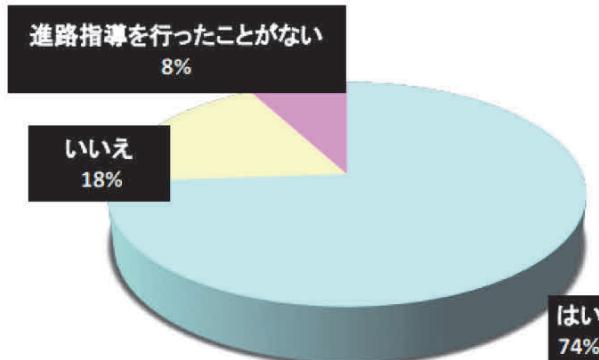
<質問10>生徒・保護者に紹介したことはあるか

「はい」122名、「いいえ」30名、「進路指導を行ったことがない」13名。

《質問10》生徒・保護者に紹介したことはあるか

はい	122
いいえ	30
進路指導を行ったことがない	13
合 計	165

《質問10》生徒・保護者に紹介したことはあるか



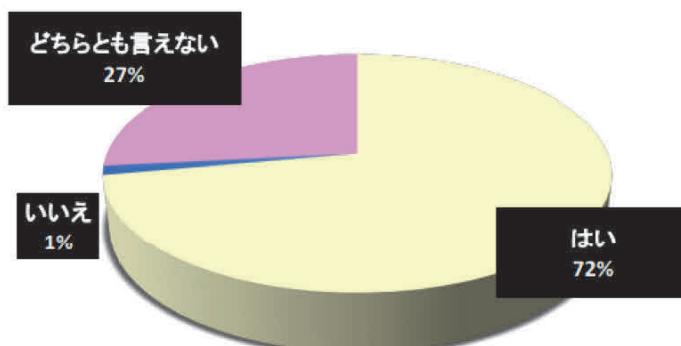
<質問11>高等専修学校の情報を知りたいか

「どちらとも言えない」44名と比較的大きい数字となっており、配慮が必要であると考える。

《質問11》 高等専修学校の情報を知りたいか

はい	119
いいえ	2
どちらとも言えない	44
合 計	165

《質問11》高等専修学校の情報を知りたいか



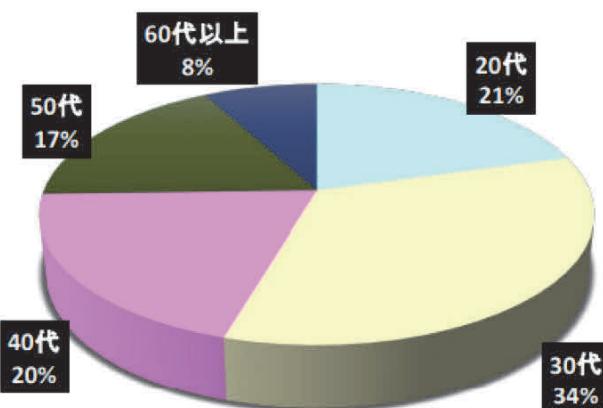
<質問12>回答者の年代について

各学校様にお願いしているが、比較的20代、30代に回答をいただいている。

《質問12》回答者の年代について

20代	34
30代	56
40代	33
50代	29
60代以上	13
合 計	165

《質問12》回答者の年代について



4. セーフティーネットの取り組みについて 各校より事例に基づいた紹介を以下にまとめた。

①生蘭高等専修学校 入試広報担当 辻野 晃

資料：事例紹介①「生蘭高等専修学校」

- ・ビジネスを学ぶ学校→検定取得に励んでいる
- ・どういった生徒が多いか→学習障害・発達障害（不安障害）・不登校・ボーダーライン

※学校生活に不安のある生徒が多い

- ・生徒 A: 勉強が苦手で自信がない（現在：就職決定）
- ・生徒 B: 小学5年生から不登校（中学3年間で先生が自宅に行き2回しか会えていない）
- ・生徒 C: 小学1年生から支援級に在籍（発達障害：小学3～4年生の学習、話ができない）
- ・重要：安心して生活できる・安全の学校環境づくり
- ・家庭との連携 ・地域との連携
- ・未来を生きる力（生徒・保護者に伝えていきたい）
- ・一般進路・手帳進路（福祉手帳を活用した進路：ビーアシスト町田事業所でグループリーダー）

②ヨコスカ調理製菓専門学校 理事長 鈴木 之一

資料：事例紹介②「ヨコスカ調理製菓専門学校」

- ・調理師を目指す「自立できる常識ある社会人の育成」
- ・3年間で育てる3つの力「技術」「知識」「コミュニケーション力」
- ・どういった生徒が多いか→不登校30%程度。手帳を持っている生徒はゼロ。持っているであろう生徒はある。特別な扱いはしない。
- ・学ぶ内容→普通教科・専門教科（調理師免許取得）基本技術マスター。インターンシップ（調理師と一緒に学ぶ）
- ・料理製菓作品展（3年間の集大成）
- ・卒業生：コロナ前は就職98%程度。今年はもう少し勉強したいと思う生徒が増えた。（大学2名・専門学校3名）
- ・事例1：中学在学中に熱中症の後遺症で障害。文字認識できず。保護者が家庭で復習をサポート。
- ・事例2：学習障害（文字認識がしづらい。漢字が形に見えてしまう）4月よりホテル勤務予定。
- ・事例3：ディスレクシア（漢字識別が難しい）家庭で保護者のサポートによる学習
- ・事例4：注意欠陥障害 ADHD（手帳なし）
- ・重要：家族の協力（サポート）。家族の協力無くしては技術の習得が難しい。入学前にしっかり話をしている。テキストを保護者に渡し、教えていることを共有、サポートをしてほしいことを伝える。

③岩谷学園高等専修学校 副校長 志村 秀穂

資料：事例紹介③「岩谷学園高等専修学校」

- ・全員が登校できる学校（高卒資格をサポート）→日々の生活の中で「傾聴」「受容」「信頼」
- ・どういった生徒が多いか→自信がない生徒（変わりたい！持っている力を発揮したい！）どうやって自信をつけさせるか。目に見える形で自信をつけさせる。履歴書に書ける。（検定取得）
- ・幅広い進路選択
- ・合理的配慮：生徒一人ひとりに対しての配慮（全員に年2回「個別支援計画」作成）・専門機関（医療、相談機関等連携）ディスレクシア支援

- ・保護者との密接な関係：毎日の電話・日報・面談・勉強会（卒業後安定した生活を送るための準備）
- ・卒業後：2018年開所（就労移行支援事業所 iビリーブ）高等専修学校で3年間、iビリーブで2年間（通算5年間）
- ・2022年4月開所予定：「自立訓練と就労移行」の多機能型事業所（最大4年間の支援・就労定着支援3年）長いスパンでの取り組み（予定）
- ・事例 A：中学校不登校（担任の先生は言葉を聞いていない）iビリーブ2年間、現在は企業実習により就職している。
- ・事例 B：ASD 診断。情報系大学進学から（4年進級時に専門学校に進路変更）。保護者との連携で一般就職が難しい。いざとなったらiビリーブへという安心感。（セーフティーネットを準備）現在は、SEとして就職。無理をさせないでいつでも連絡がくる体制。
- ・事例 C：中学校別室対応。在学中に相談支援専門員と面談（ネットワークの構築）大学進学予定だが、iビリーブにて自立訓練予定。（生活面のフォロー）

4. ご質問・ご意見等

以上の報告事項を踏まえ、協議を行った。以下にその内容をまとめた。

【笹谷委員】

綾瀬高校の校長をやっていた。インクルーシブの学校で、受験生が（9名／21名中）しか来なかった。生蘭高等専修学校さんや大和商業高等専修学校が地域にあり、進路を複数選べる環境が整っていた。経済的にちょっと難しい生徒さんが県立の綾瀬高校に来ていた。地域としての支援できる学校が連携できていた。

中学校の先生20～30代の先生に夏休みの土曜日に「定時制」「インクルーシブ高校」「サポート校」に来ていただき説明をしてもらった。（70名（2名×35校）ほど中学の先生が来てくれた）認知度の面からも「高等専修学校」全体だけではなく、その地域に絞ってそういった取り組みに「高等専修学校」も入っていくのはどうか。若い先生方がSNSの時代なのでいい情報をどんどん拡散してくれるだろう。

また、地域に絞ってなどの現在の取り組みについて、笹谷委員によると、地区により高校の校長が取りまとめて定着しているケースがあるという。さらに中村委員によると、20～30年前は、説明会があり参加して、その話を持ち帰る。また生徒は、全部の高校ではないが高校の先生に来ていただき、最低2校選んで説明を聞く。という取り組みもあったということである。

5. その他

①DVDの作成について（今年度作成予定）

アンケートからも分かるとおり、このままだとただ配布するだけになってしまう。

<高等専修学校委員会での意見>

- ・著作権、肖像権に配慮したうえで作成し、SNS（YouTube等）へのアップをするアイデア
- ・中学校の先生方等に認知していただくためには、中学校側でのネットを開く環境が整っているかどうか、学校のパソコンを開いて、生徒が見ることのできる環境などの制限がないかどうか？
- ・短いPR的なものでの作成か、もしくは事例も含め長いものでの作成か？
- ・映像（DVD）として高等専修学校の認知度を高めていきたいという狙いがあるが、実際に中学校の先生等にどういった方法であれば見ていただく環境があるかどうか。（セキュリティなどの問題なども含め）

②ワーキンググループ（分科会）の開催について

- ・若い先生方を交えたワーキンググループを開催できないか。中学校や高等専修学校の課題を含め、一緒に勉強

をしていき落とし込みができないか。勉強会により認知度アップを目指したい。

・高等専修学校が、「セーフティーネット」の位置づけられているということをしっかり周知していきたい。

以上①・②の提案について、各委員よりの意見を以下にまとめた。

○実際に学校でのパソコンの生徒1台等の状況について

【上條委員】

地域や学校によって差はあるが、ほとんどの学校でタブレットを生徒1人に対し1台配布し使用している。SNSも見ることができる環境になっている。そういうサイトがあれば自由にアクセスできる環境は整っている。DVDを見るよりも効果的である。

○不登校や学習不安、発達障害などの生徒やその家族は・・・

→高校でどんな学びができるのか？またその先どうなっていくのかが心配ある。

先ほどの3校の事例であったように、高等専修学校でそれらを担っていることをどれだけ中学校の教職員が分かっているか。

そういう不安を抱えている生徒はクラスに数名いる。それぞれの特性があり一概に言えないが、県立のインクルーシブで力を発揮できる生徒もいるがそうでない生徒に対し、支援を受けながら高校生活そしてその先の未来を支援してもらえる仕組みがあるということを中学校の教職員がもっと認識したうえで、生徒それぞれに合った進路で指導ができるのではないか。また、生徒、保護者がこういう学びや支援が受けられるということを知ること。（生徒が気軽に情報を見ることができる）これら両面があるのではないか。

現在は、職業的な学びの部分が紹介されているが、セーフティーネットの認識がもっと中学校の教職員に分かれれば、その部分の進路指導や紹介でもっとできるのではないか。実際に中学校の先生方に聞いてもらえる場はどうやったら持てるのか。

【折笠委員】

実際にどういう仕組みになっているのか、中に入ってみないと分からない部分がある。知られていない。
普通の学校に行ったからやめてしまった。独り立ちし就職して親が安心できる。進路選びのときに情報がないとどうしようもない。

「ワーキンググループ」を作って実態（いろんな学びがある）を知ることが必要ではないか。高等専修学校側も若い先生を入れ、新しい情報が得られる場としてできればよいのではないか。

小学校・中学校・高校、そしてその先のつながりまでサポートし、独り立ちできるよう就職までつなげていけることが必要ではないか。

【辻野委員】

高等専修学校→中学校を卒業して専門的な職業訓練、社会で生きていくための力を育てる。

中学校の保護者→社会に出てからのイメージがフワッとしている。何がしたいのか明確になっていない。ネットの情報が多すぎることも影響しているのではないか。

小学校から高等専修学校を知ってもらうと違うのではないか。（早い段階からの認知が必要）

中学校の先生方にどのように伝えていけばよいのか。中学校の先生方の情報が少ないだけではないか。

【上條委員】

本校生徒が今回、高等専修学校に決めた経緯として、どういう高校生活があり、どういう風に自分は支えてもらえるか、「来て・見て・聞いて」分かって安心して、そこでここに決めようと思えた。学びや支援をしてもらえ

る場であることが分かったからではないか。学校を検索してもそこまで伝わらない。実際に対面でないと伝わらないものがあるのでそこは大切にする必要があるが、そういった学びや支援を行っているということをもう少し分かるようにする必要もあるのではないか。

- ・藤沢の例

毎年、私立高校の先生に呼んでもらい学校説明会（中学校の教員向け）学校の特色や入試についてなど聞きに行く場があった。

現在は、時代の変化もあり、受験の多い学校からいくつかの高校に時間差で来てもらい、中学校の進路指導の先生が説明を受ける。

→このような場に高等専修学校にも来てもらい説明をしてもらう場があればいいのではないか。藤沢の中学校の校長会で設定ができれば、伝えられる場となるのではないか。

※直接中学校の進路指導の先生に話をしてもらう場があれば、もっと認知されるのではないか。

【鈴木委員】

毎年、横浜、横須賀、県央で進路説明会を実施している。（年5か所くらい）

→もっと将来をイメージさせられるような具体的な説明がもっと必要と感じる。上條委員の話をヒントにアプローチの仕方を変えていくことも考える必要がある。（将来を見据えた教育）

【上條委員】

生徒が安心感を得られるということが大切。自分の将来がどのようにサポートしてもらえて、どのように学んでいけるのか。安心感ができたのではないか。→とても重要なことではないか。

【中村委員】

中学校の進路指導に関わる、3年生の担任、進路指導主任は固定ではないので毎年変わるケースもあり、しっかり引き継ぎができるていない。特別支援コーディネーターの先生がもう少し理解できていれば、担任、保護者のサポート支援ができる。

中学校自体のシステムを考えなければいけない部分もある。中学校では12月くらいから面談（私学・卒業判定等）を行っていくが多くの生徒が高校進学（97%）。学歴社会ではないが、全日の高校へ行き大学に進学し、そこで将来を考えるという流れになっている。段階的に公立高校がダメだったら→私立高校→サポート校→高等専修学校となっている。

義務教育最後の中学校3年が受験教育から離れられない。職業教育につながっていない。このようなところから考えていかないとすぐに大きな変化は望めないのではないか。ただ、学習指導要領も変わり、今変わっていくチャンスではないかと感じる。

【笹谷委員】

DVDはなかなか見ないのでないか。スマホで検索してその学校へつながっていき、その先にDVDがある形がよいのではないか。

- ・本当に伝えたいことは何か。

- ・伝え方

「高等専修学校」というタイトルではダメなのではないか。高等専修学校が今やっていることを並べていく方がよいのではないか。例えば、合理的配慮・セーフティネット・技術向上これらのことから、各高等専修学校へ導くことができればよいのではないか。さらに、地域で説明会を実施するには、綾瀬市では教育長に話をするのが早いのではないか。

【宮田委員】

・児童養護施設

昔は高校に入れず就職に決めることが多かったが、高等専修学校にも入れるようになってきている。(学費支援)

・DVDの作成については、内容の精査も必要になるのではないか。

・ワーキンググループについては、中学校や高校の先生だけではなく、自立支援担当職員(専門職)も入れていただければと思う。

・毎月、施設長会(100名くらい)を実施している。そこでインフォメーションでPRできるのではないか。

神奈川県児童養護施設研究会に参加してもらうのも良いのではないか。

【甲方委員】

卒業後もずっと支援できる。学校とのつながり。支え合えるということを前面に出していくことが重要ではないか。今卒業生が何をしているのか、知っている先生がいることの安心感。助けてもらえる場がある。

いろいろな障害がある中で、どの部分の配慮が必要なのかを本人、保護者が分かっていることが大切。

6.まとめ

義務教育の中では、本来、失敗していい場であり、失敗の中から学んでいくことができる場であるが、少数の子どもたち(傷ついて虐待を受けた子たちが)が安心できる場が必要である。

子どもたちが安心できる場、自信を持てる場が、本日説明を聞くことができた各高等専修学校であると実感した。私たちは支援をするためにどういう学校があるのか知る必要がある、また保護者や生徒も分かるシステムが必要と感じた。

【神奈川県公立中学校長会 副会長 中村委員】

今まででは認知度を高めていく中でどうPRしていくかを考えていたが、まずは各学校の取り組みを理解してもらい、若い方々にワーキンググループ(分科会)に参加してもらい相互理解をしていき、子どもを主体に考え、将来のことをしっかり考え知恵をいただきながら、子どもたちの未来をサポートしていかなければと思います。今年度は今日が最後の委員会になりますが、神奈川県専修学校各種学校協会としては、2022年度についても引き続き学びのセーフティーネットを継続していく、様々な意見をいただければと思います。

【神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員長 鈴木委員】

【参考資料①】

地域連携委員会(神奈川地区)実施データ

○実施日時：①令和3年11月1日(月) 15:00～17:00

②令和4年 2月9日(木) 15:00～17:00

○実施場所：岩谷学園1号館3階 301ホール

○関係委員：清水 裕(神奈川県専修学校各種学校協会 会長)

学校法人清水学園 湘南平塚看護専門学校 理事長)

大田 裕多佳(神奈川県専修学校各種学校協会 副会長)

学校法人早見芸術学園 鎌倉早見美容芸術専門学校 理事長)

上條 茂(神奈川県公立中学校長会 会長 藤沢市立鶴沼中学校 校長)

中村 雅一(神奈川県公立中学校長会 副会長 横浜市立万騎が原中学校 校長)

間邊 浩二(神奈川県公立中学校長会 進路委員会 横浜市立松本中学校 校長)

笹谷 幸司 (神奈川県総合教育センター 教育相談課 教育相談専門委員)
宮田 浩明 (東京都社会福祉協議会児童部会 副部会長
社会福祉法人セント・ジョセフ会 理事長)
鈴木 之一 (神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員長
学校法人敷島学園 ヨコスカ調理製菓専門学校 理事長)
柏木 照正 (神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 副委員長
学校法人柏木学園 大和商業高等専修学校 理事長)
岩谷 大介 (神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 副委員長
学校法人岩谷学園 岩谷学園高等専修学校 校長)
辻野 晃 (神奈川県専修学校各種学校協会 高等専修学校委員会 委員
学校法人生蘭学園 生蘭高等専修学校)
甲方 裕之 (学校法人岩谷学園 就労移行支援事業所アイ・ビリーブ 所長)
志村 秀穂 (学校法人岩谷学園 岩谷学園高等専修学校 副校長)
折笠 初雄 (学校法人岩谷学園 本部 副本部長)
片岡 真一 (学校法人岩谷学園 本部 課長)
小川 功益子 (学校法人岩谷学園 本部)

(以上17名)

【参考資料②】

第2回委員会で使用：事例紹介スライド

事例紹介③ 岩谷学園高等専修学校

学校法人岩谷学園
岩谷学園高等専修学校
商業実務 メディア・情報科

2022年2月9日



岩谷学園高等専修学校の特徴

全員が登校できる学校
→「**担任力**」で単位取得・高卒資格をサポートします。



The diagram illustrates the school's特色 (Characteristics). It shows a central figure labeled '担任' (Tutor) connected by arrows to three circles: '担任' (Tutor), '受容' (Acceptance), and '信頼' (Trust). Arrows point from these circles to the text: '保護者との情報共有' (Information sharing with parents), 'ありのままを受けとめ認める' (Accepting things as they are), and '生徒を信じ任せる' (Handing over students to trust them). A blue arrow labeled '共感' (Empathy) points from the '受容' circle to the text 'よく話をきく 聞きを多く行う'. Another blue arrow labeled '支持' (Support) points from the '信頼' circle to the text '生徒を信じ任せる 言ふきをなえる'.

岩谷学園高等専修学校の特徴

自信を高め、ステップアップと一緒に目指します



The diagram shows a flow from a cloud labeled '自信がない' (No confidence) to a plus sign, then to a cloud labeled '変わりたい!!' (Want to change!!), then to another plus sign, and finally to a cloud labeled '自信が芽生える' (Confidence grows), '毎日登校' (Attendance every day), and '進路を考える' (Consider future career paths).

高等学校卒業資格について

本校では 東海大学付属星高等学校
との技能連携により、高等学校普通科
の卒業資格も取得できます。



The diagram shows a vertical path: '中学校卒業' (Middle school graduation) leads to '入学' (Admission) at '岩谷学園高等専修学校' and '東海大学付属星高等学校'. From there, it leads to '卒業' (Graduation) at '大学 短大 専門学校 就職' (University, Junior College, Vocational School, Employment).

岩谷学園高等専修学校の特徴

タブレット端末を使った学習

毎日の日報や、各教科の授業の中でも使用します



検定 ~目に見え、手に取れる自信~

岩谷学園で受験できる主な検定試験

全商ビジネス文書実務検定
全商情報処理検定

日商簿記検定
全經簿記検定
全商簿記検定
全商電卓実務検定

実用英語技能検定
ビジネス能力検定
日本漢字能力検定
実用数学技能検定

多様な進路指導

幅広い選択

- 就職(一般、障害者雇用)
- 福祉就労(就労移行支援事業所・A型B型など)
- 進学(大学、専門学校)
- 早期より進路学習
- 職業適性検査実施
- 企業見学・インターンシップ
- 校内実習→企業実習

進路実績(進学・就職)

【大学】(抜粋)

青山学院大学
駒澤大学
神奈川大学
産業能率大学
関東学院大学
横浜国際大学
湘南工科大学
立正大学
フェリス女子学院大学
桜美林大学
日本大学

【専門学校】(抜粋)

日本工学院専門学校
日本工学院八王子専門学校
情報科学専門学校
アーツ・カレッジ・アカデミー
横浜テクノ専門学校
日本デジタル学院
東京声優アカデミー
横浜こじも専門学校
横須賀アートスクール
読売自動車大学校

等

【就職】(抜粋)

株式会社横濱屋
株式会社文化堂
株式会社日本ケンタッキー・フライドチキン
PwCあらた有限公司
株式会社エックダイズ
社会福祉法人同潤会
第一水戸株式会社
まいばすけっと株式会社
バーソルサンクス株式会社
LAVA International
京急サービス株式会社
株式会社リジョイスカンパニー
はまぎんビジネスチャレンジ等

合理的配慮

- ①習熟度別クラス(数学・英語)
- ②生徒全員に個別支援計画作成
- ③ディスレクシア支援
- ④専門機関と連携
医療、相談機関と情報交換、カンファレンス

保護者支援

- ①家庭と学校との連携 日報
- ②保護者面談の実施 年3回以上
- ③勉強会開催(年間3回)
テーマ 障害年金の取得について(毎年開催)
講師 年金事務所、医療、福祉、行政、企業から

Iビリーブ ~受け入れて、社会につなぐ~



就労移行支援事業所

Iビリーブ

岩谷学園より徒歩5分

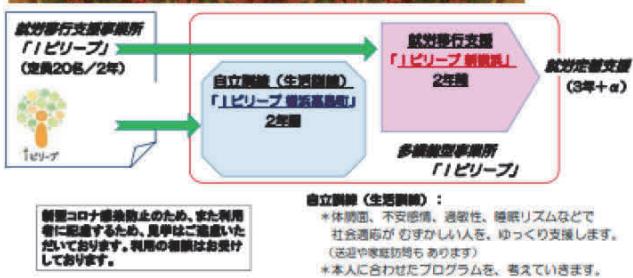
高島町駅より徒歩1分

就労移行支援事業所『Iビリーブ』が岩谷学園の事業所として2018年開所しました。
卒業後、サポートを受けながら働くことを希望している生徒の受け入れや、就職後の定着支援を行います。

在学中も進路学習で連携、卒業後の進路も安心



「自立訓練と就労移行」の多機能型事業所へ (2022年4月開設予定)



事例A ~緘黙を乗り越えて~

- ・同年代生徒との会話が苦手（中学校は不登校）
- ・高校は毎日登校 少人数の学習環境になじむ（教員とは会話する）得意な分野を伸ばす
- ・療育手帳を取得
- ・企業に見学には行くが、実習にためらい
- ・就労移行支援事業所 Iビリーブを2年間利用→毎日通所
→企業実習で自信をつける
- ・企業に就職（障害者雇用）→Iビリーブ就労定着支援中

事例B ~大学進学から進路変更~

- ・中学校では不登校
ASDの診断あり
- ・情報系検定に合格→自信を持つ
- ・大学進学 AO入試で合格
- ・大学3年で進路変更→情報系専門学校へ
保護者から相談→就活でつまずく前に→セイフティネットを準備
(いざとなったら「Iビリーブ」=安心感)
- ・就職はIT関係企業に一般就職

事例C ~自分のペースを大事にする~

- ・中学校では別室登校
- ・本校入学後は計画的に登校
受診同行・主治医と相談
ソーシャルワーカーと連携
- ・担任の関わり→受容と共感
在学中から相談支援専門員と面談→計画相談→**ネットワーク構築**
- ・大学進学
- ・Iビリーブ自立訓練に通所予定

生徒に合わせた指導・支援をしています

ご清聴ありがとうございます。

3-5 岡山県（担当校：中国デザイン専門学校）

文部科学省委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

高等専修学校の学びの「セーフティーネット」

令和3年度 地域連携委員会（岡山地区）実施報告

開催校 中国デザイン専門学校

テーマ：高等専修学校と地域団体との連携について

学校とフリースクールと NPO との共通点は社会参加のための支援機関になり得るということ。

○不登校経験者に必要なこと、有効なこと

- ・経験、体験をさせるということ。
- ・接する人が安心できる存在であること。
- ・農業など肌で感じることができるようにするのは合う。調理（スイーツ） ゲーム・アニメも良い。
- ・単純作業はコミュニケーションを取らなくて良いから安心してできるが、それがメインではなく、あくまで通過点の方が良い。

○学校での取り組みでボランティアを行っている。ボランティアを通した社会参加の有効性について

学校では幼稚園や老人ホームでのボランティアをしてきた。コロナが流行ってきてから試行錯誤して制限されてきた。フリースクールではコミュニティーに参加できるまでの期間は人によってそれぞれ。2週間の人から6年くらいかかった人もいる。その後、アルバイトができるようになった人もいるが、あくまで通過点なので出口は別に考えておいた方が良い。

○支援とは予防・発見・支援・出口の順に進めていく。出口（進路）の作り方について

一番まずいのが卒業後に学校と関係が切れてしまうこと。誰かとつながっている。卒業後のつながりを維持することが必要。卒業後の情報が切れる場合が多い。卒業後5年くらいはつながりを維持していきたい。

○NPO フリースクールの活動について

NPO センターに来る中学生、高校生も多くなったが、参加のきっかけは学校の評価のためということが多い。NPO 側が参加者に対して、いかに引っ掛かりを作つて興味を持ってもらうか。ボランティアも軽いものからハードなものもある。若い人は失敗をしたくないという思いが強い。自己肯定、成功体験を積み重ねて、次のステージに目が向くために用意しておく。最近の若い人たちの社会課題に対しての共感度は高いと思う。SDGs など義務教育で習っている分ハードルは低い。ただ、具体的に何ができるか。どんな方法があるかという手段を理解してはいない。ボランティアをする先に何があるのか視野の開拓。その先に誰が、何を求めているのかをNPO 側が伝えていかないといけない。ストーリーの重要性 ボランティアは良いことという単純なものではなく、社会に対して何ができるかという深み、興味関心の目が向いて欲しい。

フリースクールではアウトリーチ（訪問支援を）する人たちは20代の大学生。自分の不登校の経験をもとに、社会に何ができるかと考え動いている。年間で参加するボランティアは40名くらい。その中で継続的に残るのは1割～2割程度。

○地域連携の方法

学校への訪問支援（アウトリーチ）フリースクールが学校の中にスペースを設けてみる。学校の中の仕組みで外にでていくだけでなく、外の人が学内に入ってアプローチすることもアリではないか。教員への研修を行い、指導面でも理解を深めたり、各団体の認識を広げていったりするはどうか。年齢の壁も重要で若いメンバーが盛り上げていくのが良いのではないか。

【参考資料①】

地域連携委員会（岡山地区）実施データ

○実施日時 令和4年2月16日（水）13：00～14：30

○実施場所 オンライン

○参加委員 村本 和孝（志塾フリースクールおかやま 理事長）

利根 弥生（岡山 NPO センター）

平田 真一（中国デザイン専門学校 基礎デザイン科 学科長）

花田 洋通（中国デザイン専門学校 基礎デザイン科 学科長）

橋本 典子（中国デザイン専門学校）

光森恵理子（中国デザイン専門学校）

（以上6名）

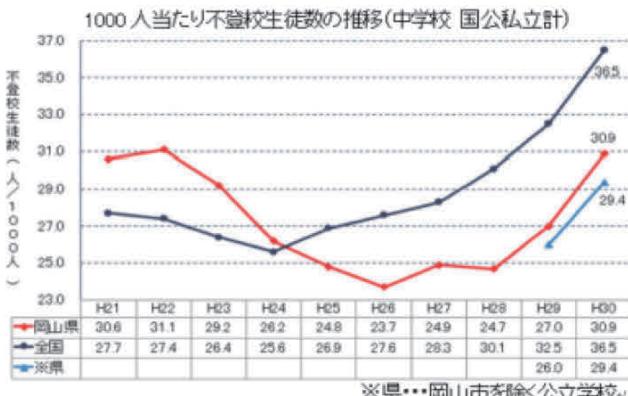
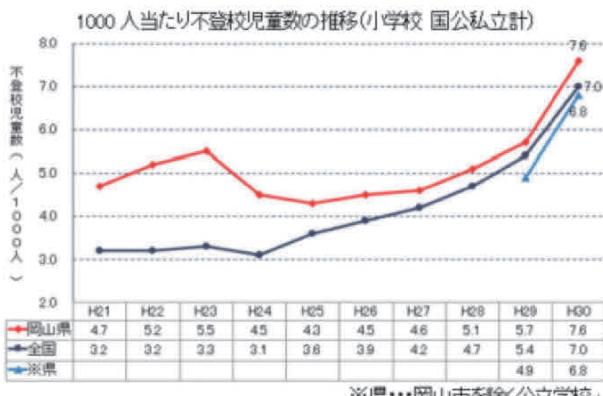
【参考資料②（会議資料）】

岡山県の不登校の現状

長期欠席・不登校対策について

1 本県の課題等

本県の小学校及び中学校における不登校の出現率（1000人当たり）は、全国の傾向と同様に増加しており、喫緊の課題となっている。



岡山県ホームページから抜粋